

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1204
令和8年7月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



スイレンの花（大阪市内）

トピックス：生産性の高い林業の確立に向けて（資源活用課）

ニュース：鳥取森林管理署、滋賀森林管理署、企画調整課

花草木：ジャカランダ

我が署のスタッフ：奈良森林管理事務所

森林事務所等紹介：大野森林事務所（福井森林管理署）

国有林最前線：和歌山森林管理署

生産性の高い林業の確立に向けて

【資源活用課】

近畿中国森林管理局では、平成 30 年度から各森林管理署等における生産事業請負契約において生産性向上モデル事業地を設定し、作業日報による工程管理により、作業システム全体の生産性向上を図る取り組みを行っています。

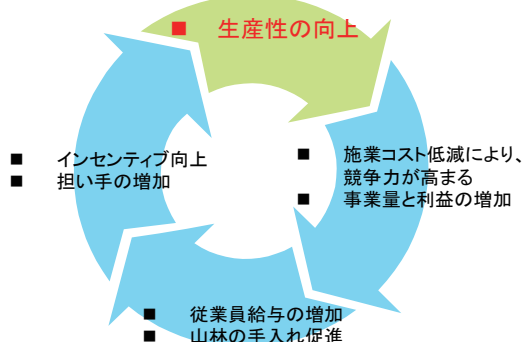
生産性向上の目的

生産性の向上は、我が国林業全体の課題であり、地域林業を支える林業事業体の経営基盤の強化や雇用の安定化、国産材の供給増大につながります。

生産性向上のメリット

- ・向上によるコスト削減は、事業者の利益となり、生産性経営の安定化につながります。
- ・利益を賃金等の雇用条件の改善につなげるなど、関係者に配分し、正のスパイラル（生産性向上→組織の利益→雇用改善→生産性向上）を生み出します。
- ・機械や人材への投資の安定・拡大、雇用条件の改善により、安全性の向上にもつながります。

＜利益拡大による正のスパイラル＞

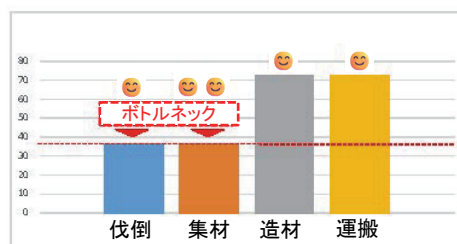


どう実践するか

ボトルネックを把握するために工程管理を行う

ボトルネックが把握されないと・・・

- ✓ 生産性の低い工程が全体の生産性向上を妨げることになります。
- ✓ 生産性が上がらない⇒生産力が低い⇒生産規模を拡大できないという状態から抜け出せない状況になります。

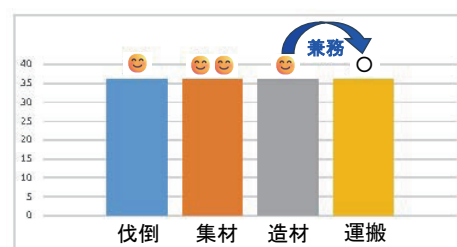


工程管理の数値をより効率的な作業システムに移行する時の判断材料にする

工程管理を実施することで

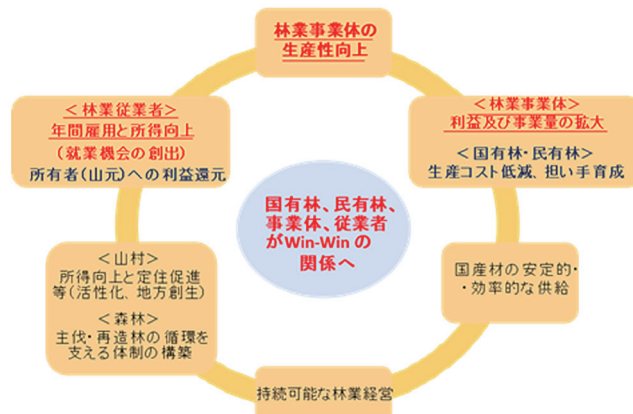
- ✓ 現在の作業システムの各工程が具体的な数値で確認できます。
- ✓ 現システムの潜在的な生産力や生産規模の上限を把握することができます。
- ✓ 規模拡大を検討する際に、工程管理の実行結果があれば、数値に裏打ちされた実践的な検討ができます。

(例：どのような機能の機械を購入するか、作業量の増減によりコストがどう変化するか、作業システムをどのように変更するか等)



「マルチ技能者」の育成起用によるボトルネックの解消イメージ

生産性の高い林業の確立



＜生産性向上による事業利益の増加イメージ＞

※全て1㎡当たり金額

【改善前】 11,600円		【改善後】 11,600円	
2,000	素材価格	2,000	
430	事業利益	900	UP
6,600	生産費	5,000	DOWN
2,570	立木価格	3,700	UP

【生産性 7㎡/人日】 【生産性 10㎡/人日】

・利益率 3.7% → 7.8%
・賃金 12千円 → 17千円

生産性が向上した事例

現地調査の結果から1 集造材・仕分けの工程を工夫

※ () 書きは林業用語、林業機械名等を標記しています。

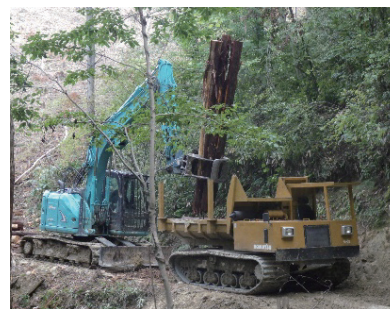
- ・ 木寄せ場所を作業道脇に変更したことで、丸太への加工（造材）と仕分けの同時進行が可能となった。
- ・ 良材と低質材を分けて運搬車（フォワーダ）に積み込むことで、土壌での仕分けが不要となり時間短縮となった。



伐採した木を作業道脇に集積し造材効率アップ



丸太加工（ハーベスタ）・丸太の積み込み（グラップル）・運搬車（フォワーダ）の連携で運材効率アップ



良材・低質材ごとに運搬車（フォワーダ）に積み込むことで土場での仕分けを省力化

現地調査の結果から2 ワイヤロープから繊維ロープへの転換

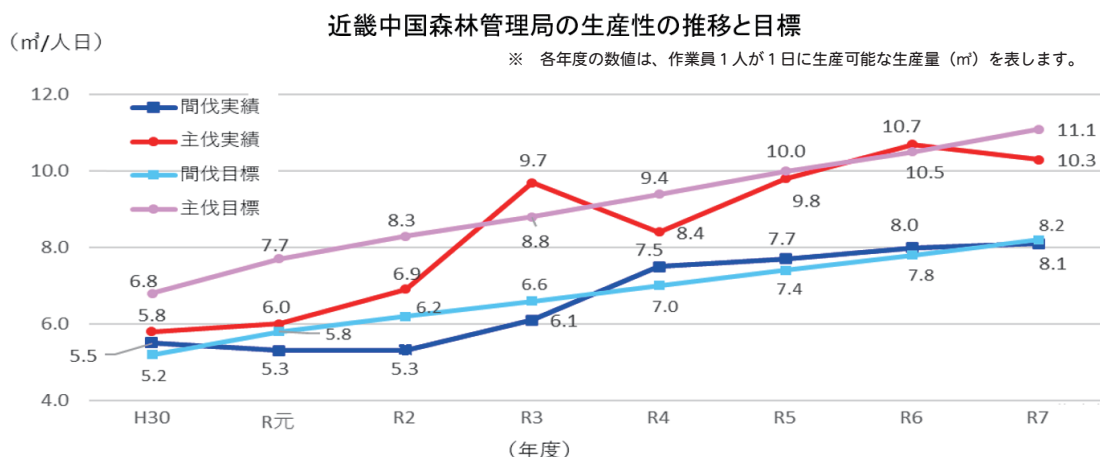
- ・ ワイヤロープと比較すると、軽量で作業性に優れるため、林内における伐倒木へのロープ掛けが容易に行え、捻じれによる摩耗（キンク）が起こらない。
- ・ 柔軟で耐摩耗性に優れ、強度・耐久性はワイヤロープと同程度で扱いやすい。



繊維ロープにしたことで作業員の労力軽減



強度・操作性に優れた繊維ロープの使用で、伐倒木へのロープ掛け（玉掛け）作業の効率アップ



おわりに

林業は野外作業が主体であり、地形や路網整備の状況、作業システムなどの現地条件が大きく異なります。また、林業事業体（以下、「事業体」という。）ごとに作業方法も異なることから、生産性を単純に比較することは困難です。しかしながら、上記グラフのとおり、事業体の皆様の努力により、近中局の生産性は年々向上しております。

近年は国産材への期待が高まっていることから、林業の採算性を高めるためには、さらなる生産性の向上が必要であると考えます。

今後も、作業システムの改善に向けた分析を行い、その結果を事業体の皆様にフィードバックするとともに、皆様と連携した取組を進め、林業の採算性向上に努めてまいります。

第80回 大山夏山開き祭に参加しました。

【鳥取森林管理署】

令和8年6月6日（土）から7日（日）に実施された「^{だいせん}大山夏山開き祭」に鳥取署を代表して署長が参加しました。

大山は鳥取県西部に位置する中国地方最高峰（標高1,709m）の山で、主峰を中心として広がる森林の大部分が国有林となっています。古くから霊山として信仰されてきた歴史があり、日本百名山にも選定されているなど、鳥取県のシンボルともいえる山です。



たいまつを手に練り歩く人々

6月6日の前夜祭では、大神山神社奥宮にて神事が執り行なわれたのち、約1,500名の方々がたいまつを手にして参道を練り歩く「たいまつ行列」が実施されました。

たくさんのたいまつが連なって移動する様はまるで火の河が流れるようであり、あたりには幻想的な光景が広がりました。

6月7日の山頂祭当日は夏山登山道から山頂を目指し、



弥山山頂で行われた山頂祭

多くの登山者が見守る中、弥山山頂の山頂碑前にて神事が執り行われました。署長も玉串を奉納し、参加者全員で登山者の安全を祈願いたしました。

今夏山シーズンにおきましても、山を愛する県内外の皆様が無事に大山登山を楽しまれることを切に願っております。

休憩を挿みつつ約3時間で^{みせん}弥山山頂に到着しました。

当日は天候に恵まれず荒れ模様となりましたが、多

大津市立田上中学校の生徒の職場体験学習を実施しました。

【滋賀森林管理署】

令和8年5月25日（月）から5月29日（金）までの5日間、昨年度に引き続き大津市立^{たなかみ}田上中学校の2年生3名の職場体験学習を受け入れました。

初日は、署長から国有林野事業や管内概要の説明を受けました。またシカ捕獲事業について説明を受けた後、午後からは国有林内でドローンの飛行を行いました。

2日目は、甲賀市^{さんごうやま}の三郷山国有林で、立木の伐倒作業を見学し、地上型レーザースカナを用いた収穫調査を体験しました。



伐倒作業の見学

3日目は、庁舎敷地内の国有財産の調査を行った後、公文書の取扱いや支払事務、パソコンを利用してWEB会議を体験しました。

4日目は、近江八^{おくしまやま}幡市の奥島山国有林で、林業専用道施工現場の見学や測量機器の操作を体験しました。



林業専用道施工現場の見学

5日目は、甲賀市の三郷山国有林で、シカ等から苗木を保護する防護柵の点検を行いました。午後からは、林道の横断



防護柵の点検

溝や側溝に堆積した土砂等の除去作業を体験しました。

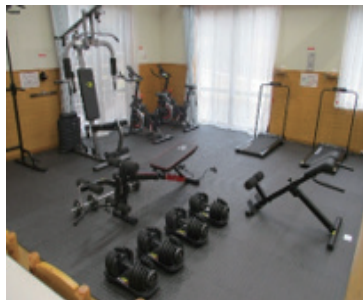
5日間の職場体験を通じて、中学生の皆さんが森林の重要性や森林保全について理解を深める機会となれば幸いです。

未来の森を支える担い手を育てる ー林業大学校等にフォーカスー 島根県立農林大学校林業科

【企画調整課】

近畿中国森林管理局と管内の林業大学校等 11 校で構成する林業大学校等協議会を設置し、森林・林業の次代を担う人材の育成・確保に取り組んでいます。

各校では森林・林業のプロの育成を目指し、学生達が知識・技術の習得に汗を流しています。今回から各校リ



筋トレルーム

に、待望の筋トレルームが完成！

林業は自然を相手にする、やりがいバツグンの仕事。でもその分、夏は暑く冬は寒いし、急斜面の足場、重い木材などやっぱり体力勝負の場面も多いんです。



筋トレルームでトレーニングする学生達

学生達も日々ジムに行ったり場内を走ったりと奮闘していますが、お金や時間の都合で体づくりを続けるのはひと苦労…。

そこで寮内に本格ジムを設置！冷暖房完備＆無料で、今ではプロテイン片手に汗を流す学生達で賑わっています。

学生募集・イベント案内は QR コードを読み込みください。



島根県立農林大学校
林業科



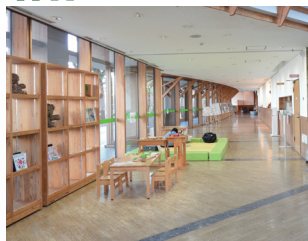
オープンキャンパス URL
7/22.7/25



農林大学校入試情報

お知らせ

森林のギャラリー (局庁舎1階)



【技術普及課】

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

ホーム > 報道・広報 > イベント情報 > 森林（もり）のギャラリー

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【箕面森林ふれあい推進センター】

○令和 7 年度年報 (2026 年 6 月) を発行しました。今詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム > 近畿中国森林管理局へようこそ > 森林管理局の概要 > 箕面森林ふれあい推進センター > 発行冊子 > 年報

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/nenpo.html



【森林技術・支援センター】

○ 森林技術・支援センターでは、森林・林業関係者の皆様を対象に、当センターの技術開発課題の取組と成果を実際にご覧いただくため、「森林・林業技術視察プログラム」を作成し実施しています。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム > 近畿中国森林管理局へようこそ > 森林管理局の概要 > 森林技術・支援センター > 森林・林業技術視察プログラム

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/shisatsu_program.html



花草木

【ジャカランダ】

ジャカランダ（学名：Jacaranda、科名/属名：ノウゼンカズラ科/キリモドキ属（ジャカランダ属）は、熱帯アメリカに50種が自生しています。

世界三大花「カエンボク」「ジャカランダ」「ホウオウボク」のうちの一種です。

観葉植物としてよく栽培されているのは、ボリビア、アルゼンチン原産のジャカランダ・ミモシフォリア（*J. mimosifolia*）です。常緑高木で、自生地では高さ15mに育ちます。葉は緑色で対生し、2回羽状複葉です。開花時期は5月から6月で青紫色のほか紫色や白色の花が咲きます。

ジャカランダの花言葉は「栄光」と「名誉」です。



市内の公園で咲いていたジャカランダの花です。

我が署のスタッフ 奈良森林管理事務所

早子 航（はやこ わたる）（令和4年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループで主に造林事業と車両業務を担当しています。造林事業では入札公告の作成から事業の完了に至るまでの一連の事務を行っています。車両業務については、点検・整備の発注、車両物品の購入など全般に渡って事務を行っています。その他にニホンジカ捕獲委託事業の一部事務等も担っています。いずれの業務においても規程や要領等を早く熟知し、ひとり立ちできるようにしていきたいです。

【職場の雰囲気は？】

ベテランから若手まで幅広い年齢層の方がいる中で、所内は笑いが絶えず、とても居心地のよい職場です。また、知識や経験の豊富な上司が多く、相談しやすい環境が整っています。業務にあたっては各担当が協力的に取り組んでいます。

【林野庁の魅力は？】

仕事については、室内事務ばかりではなく、山に行き体動かす仕事もあり、様々な経験ができるところが魅力です。この仕事に就くまでは、山のことをよく知らなかったのですが、仕事で携わってからは、山の価値観など新たな発見ができました。



倒木処理に励んでいる様子

森林事務所等紹介

大野森林事務所（福井森林管理署）

首席森林官 北本 秀一（きたもと ひでかず）

大野森林事務所は福井県大野市城町に所在し、大野市に所在する国有林 18 団地約 16,400ha、官行造林地 11 団地約 930ha を管轄しています。

管内の特徴的な国有林としては、福井県内で唯一日本百名山に選定されている荒島岳^{あらしま}（標高 1,523 m）が所在する荒島国有林があります。



荒島岳頂上で撮影（一番左が筆者）

荒島岳は山容の美しさから「大野富士」とも呼ばれ、地元の人々に愛されています。近年は、中部縦貫道も整備され、人気の道の駅「越前おおの 荒島の郷」も近く、県内外からの登山客等で賑わっています。

昨秋、荒島岳に登りましたが、頂上からの眺望は格別でした。皆様も一度お越しになられてはいかがでしょうか。

このほか、大野森林事務所の管轄する国有林の多くは岐阜県沿いの山間奥地に所在するため、山々は急峻で、近年は大雨による大規模な土砂崩れで国道の通行止めが続いて発生しています。

森林官の主な業務は、林野巡視や森林整備事業等の監督業務ですが、現場が遠いため当日の天候やクマの目撃情報を常に確認しつつ、安全業務に努めています。

今後も地域の方々に国有林で良かったと言われるよう適切な管理と事業運営に取り組んでまいりたいと思います。



山頂から望む景色



冬の荒島の遠景写真

シリーズ『国有林 最前線！』

民有林直轄治山事業の取り組み

～紀伊半島大水害から15年を迎えて～

和歌山森林管理署

平成23年、台風12号の記録的豪雨により、和歌山・奈良・三重県で甚大な被害をもたらした「紀伊半島大水害」が発生しました。和歌山森林管理署では、平成25年度から特に荒廃状況が複雑で復旧に高度な技術を要し、事業規模が大きい「本田垣内地区（大規模崩壊）」「上平治川地区（大規模崩壊）」「^{しものたに}下モ谷西側地区（大規模崩壊）」など6つの地域において、民有林直轄治山事業に着手し、また、平成29年度からは和歌山県の追加要望を受けた「上秋津地区（地すべり）」においても民有林直轄治山事業に取り組んでいます。

災害の復旧にあたっては、それぞれ災害規模が大きいことから、溪間工、山腹工、地下水排除工など多岐にわたる工法を組み合わせて施工しています。完成まで長い年月を要するものの、復旧への道のりを一步一步進めています。令和8年度現在、3つの地域で工事が完成して和歌山県へ引き渡しを行い、工事箇所は4地区を残すのみとなりました。

また、当署では復旧に合わせて、地域に密着したソフト対策を実施しています。令和8年5月29日には下モ谷西側地区の治山現場にて、地元小学生に治山事業の大切さと災害の恐ろしさを知ってもらうためのイベント「熊野の森再生植樹～紀伊半島大水害から15年を迎えて～」と題した植樹祭、防災学習を実施しました。災害から復興させるだけでなく、植樹や防災学習を通じて、土砂災害の恐ろしさや森林の大切さを子どもたちの記憶に少しでも残してもらい、仮に、再び災害発生の危険が生じた際には、命を守る行動につなげてもらえるよう、地域のこれからを見据えて取り組んでいます。イベントに参加した子供たちからは「すごく斜面が崩れていてびっくりしたし、紀伊半島大水害について勉強になった。ちゃんと育ててほしいと願いながら苗木を植えた」「植樹した木が大きくなってほしい」などの感想が寄せられました。

まだまだ時間はかかりますが、地元と共に安全・安心を届けるため、民有林直轄治山事業を進めて参ります。



復旧が進む 上平治川地区



復旧が進む 下モ谷西側地区



植樹をする生徒



植樹祭（参加者全員で記念撮影）